

筆記試験 (社会)

【注意】

- (1) 問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- (2) 問題冊子は 1 ページから 9 ページまであります。
- (3) 「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- (4) 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- (5) 語句を答えるときは、漢字で書けるものは漢字で解答しなさい。
- (6) 問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- (7) 解答用紙の※印の空らんには何も書いてはいけません。
- (8) 「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- (9) 試験時間は 30 分間です。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1 江戸時代までの歴史と人口の移り変わりを述べた次の文章を読んで、あとの間に答えなさい。

縄文時代、人々はかりや採集を中心とした暮らしをしていました。春には野草やあさり、はまぐり、a)夏になるとかつおやまぐろ、秋になるとさげやます、そして一年を通して森のどんぐりなどが食べられていたようです。人々は地面を円形にほり下げ、柱を立て屋根をつけた b)たて穴住居に住んで、なわ目のものがある【 1 】を使い、料理していました。この時代の人口は一番多い時で、26 万人ほどだといわれています。その人口は、彼らが定住のために作った集落の大きさと全国に広がる遺跡の数から割り出されました。

弥生時代、人々の多くは大陸から伝来した c)米作りをしていました。米作り

は田植えをすることからはじまります。道具としてはくわや石包丁いしほうちようなどが使われました。田植えから収かくまでの半年以上、人々はおたがいに協力しながら農作業を行いました。右の図は、青銅器に刻まれた d)だっ穀などの様子を表しています。彼らは米作りに適した土地に集団で住んでおり、人口は、一番多い時に 59 万人ほどだったといわれています。



794 年に、【 2 】の命令で都を京都に移し、平安時代がはじまりました。この時代は天皇を中心として、一部の貴族が政治を動かしていました。有力な貴族は、e)各地方で集められた税を使って、f)寝殿造しんでんづくりの住まいに住んで、さまざまな儀式や季節ごとの行事をしきたりにしたがって行っていました。この時代の人口は、一番多い時で 683 万人ほどでした。これは、記録に残された全国の水田の面積をもとに、おおよその数が割り出されました。

鎌倉時代は、【 3 】によって幕府が開かれて、はじまりました。彼は、有力な御家人を各地の【 4 】や地頭じとうに任命し、幕府の支配を全国に広げました。この時代、多くのききんが発生したため、人口は 595 万人ほどまで減ってしまったといわれています。

室町時代、農村では食料増産のきっかけになる g)二毛作が広がりました。さらに、村人は、水車を利用して水を引き、水不足の土地にも水田を広げたり、「寄り合い」を開いて村の決まりを作ったりして、結束を強めました。そのため人口も増加して、約 1000 万人をこえるようになりました。一方、都では 1467 年に【 5 】がおこり、11 年にわたり戦いが続きました。その後、幕府の力はおとろえ、h)自分の勢力をのぼそうとするものが各地に現れ、戦いがおこるようになります。

これまでひんぱんにあった戦いを終わらせ、全国統一を実現したのは【 6 】です。彼は農民から武器を集め、i)全国の田畑の耕作者とその面積と土地のよしあしや収かく量を調べ、記録しました。この調査をもとに割り出すと、当時の人口は約 1200 万人であったといわれています。

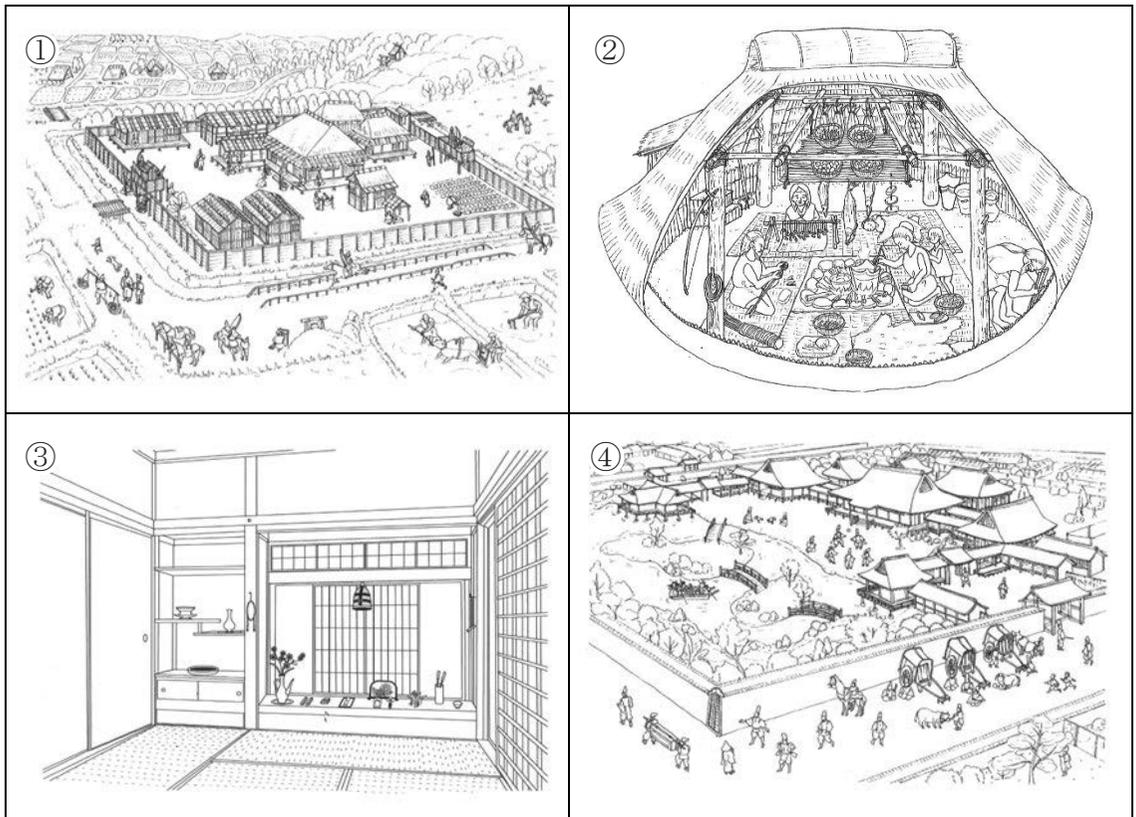
江戸時代は、徳川家康によって幕府が開かれて、はじまりました。幕府は、大名や朝廷をとりしめる決まりをつくり、全国支配の基そ固めを行い、大きな戦いがおこらない安定した世の中をつくりました。この時代の人口を調べるために使われたのは、j)「宗門改帳」と呼ばれるものです。1671 年以降は毎年全国で調査が行われ、そこから比かく的正確な人口を知ることができます。k)幕府がつくられて 100 年が過ぎるころには、人々の生活は豊かになり人口はさらに増えたといわれています。

問 1 文章中の【 1 】～【 6 】に最もふさわしい語をそれぞれ答えなさい。

問 2 下線部 a)について、現在、日本で行われている漁業に関する説明として、あやまっているものを 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ア 北海道の開たくにより、古くから住んでいたアイヌの人は、さけやますの漁場の権利を失い、生活が成り立たなくなった。
- イ かつおやまぐろは、暖流の黒潮にのって日本近海にやってくるため、静岡県の焼津や鹿児島県の枕崎の水あげ量が多い。
- ウ 日本では、南太平洋などの遠くの海まで大型船で出かけ、長期間、まぐろ漁を行う沖合漁業の水あげ量は減少している。
- エ かつおの水あげで有名な宮城県の気仙沼は、東日本大しん災からの復興計画をもとに、水産業の特色を生かしたまちづくりを進めている。

問3 下線部 b)と下線部 f)について、下の図①～④の中からあてはまるものを選び、その組み合わせとして最もふさわしいものを記号で答えなさい。



ア b)－① f)－③

イ b)－② f)－③

ウ b)－① f)－④

エ b)－② f)－④

問4 下線部 c)について、現在、日本で行われている米作りの説明として、あやまっているものを1つ選び、記号で答えなさい。

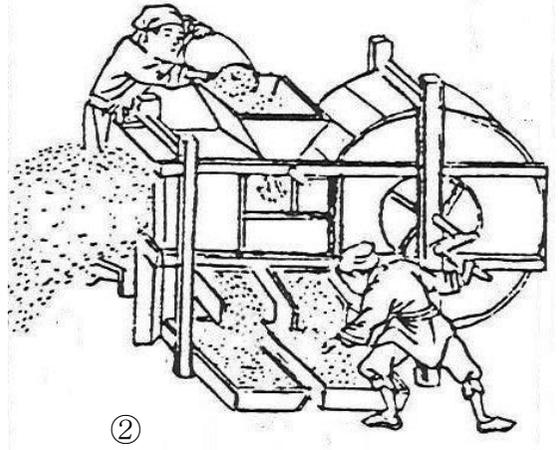
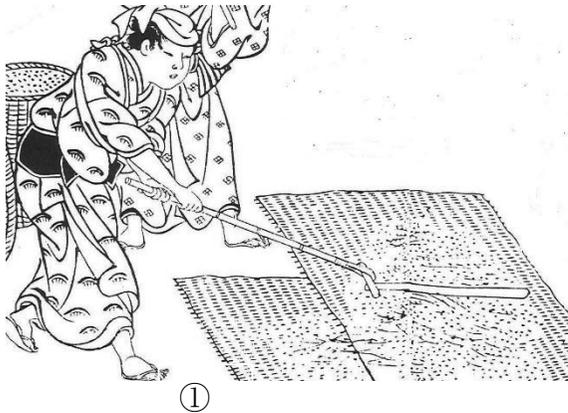
ア 新潟県の越後平野では、寒流の親潮の上をやませがふくと、冷たくしめった風となり、いねの冷害を引きおこしている。

イ 北海道の石狩平野では、長年の研究により寒さや病気に強いいねの品種が開発された結果、豊富な雪どけ水を利用した米作りを行っている。

ウ 福岡県と佐賀県にまたがり、筑後川の流域に広がる筑紫平野は、早くから機械化が進められ、九州一の米の産地となっている。

エ 山形県の庄内平野では、用水路を整え、冷害防止のための水量の調節や機械化による米作りを行っている。

問5 下線部 d)について、下の図①～③は、江戸時代に行われただっ穀などの作業の様子を示しています。それぞれの作業において道具の工夫が行われ、米の生産力が大はばに上がったことが知られています。①～③の作業について、正しい作業の順に並べかえなさい。



問6 下線部 e)について、現在、地方自治体が集めた税金の使いみちとして、あやまっているものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 病気などで生活に困っている人に、生活費をえん助する。
- イ 地域の図書館や公民館などの公共施設を整備する。
- ウ ゴミの収集や水道の設置を行う。
- エ 災害派けんで活やくする自衛隊の装備をこう入する。

問7 下線部 g)について、二毛作とはどのような農業をいうのか、説明しなさい。

問8 下線部 h)について、あとの問いに答えなさい。

(1)各地で力をつけ、周辺の勢力をほろぼすなどして、支配した武将を何というか、漢字4字で答えなさい。

(2)(1)の一人で、以下の文章で説明されている人物の名を答えなさい。

彼は弓や刀などを使う従来の戦い方から、集団で鉄砲^{てっぽう}を使う戦い方をして勢力をのぼしました。幕府をほろぼし、琵琶湖のほとりに安土城を築き、天下統一を進めましたが、こころざしなかばで家臣の裏切りにあい、なくなりました。

問9 下線部 i)について、この政策を何というか、答えなさい。

問10 下線部 i)の政策と農民から武器を集める政策の結果、社会が安定したといわれています。なぜそのようになるのか、説明しなさい。

問11 下線部 j)について、幕府が「宗門改帳」を作った理由は、一人ひとりがいずれかの仏教寺院の信者であることを確認するためです。なぜ、そのようなことをしたのか、説明しなさい。

問12 下線部 k)について、下の表1は、江戸時代の耕地面積と収かく量の変化を表しています。これを見ると1700年以降、耕地面積の増え方はそれほど大きくないのに対し、収かく量は順調に増加していることが分かります。なぜこのようなことがおこったと考えられるのか、あなたの考えを述べなさい。

【表1】江戸時代の耕地面積と収かく量の変化

	耕地面積(千町)※1	収かく量(千石)※2
1600年	2,065	19,731
1650年	2,354	23,133
1700年	2,841	30,630
1750年	2,991	34,140
1800年	3,032	37,650
1850年	3,170	41,160

(『日本経済史1 経済社会の成立』より作成)

※1 町は、土地の面積を表す単位。1町は約1ha

※2 石は、体積を表す単位。米1石は重さにすると約150kg

2 明治時代から現在の人口の移り変わりを述べた次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

a)明治時代に入って、乳幼児の死亡率は高いままでしたが、子どもの数は増えていきました。江戸時代末期までは、日本の人口の8割は農村に分布しており、子どもは親の仕事を受けつぎました。明治時代になると学制が發布され、子どもは学校教育を受けるようになりますが、学校から帰ると子もりをしたり、夕食の用意をしたり、親といっしょに働くことが日常でした。また、都市に出て、b)親とは異なる仕事につく子どももみられました。

その時代の日本にとって、最初の外国との大きな戦争は、1894年にはじまった【 1 】でした。その後日本は、2つの戦争を経験します。明治時代の初めには約3330万人だった日本の人口は、太平洋戦争直前には7000万人をこえ、約70年間で2倍に増加しました。1941年からc)太平洋戦争がはじまると、戦争により子どもの生活はおびやかされるようになりました。

戦後、日本の民主化により、1946年に【 2 】が公布され、翌年5月3日にし行されました。農村においても、1947年から【 3 】がじっしされると、地主の土地は安い値段で小作農に売りわたされ、自作農が増えた結果、農民の生活は少しずつ豊かになりました。また、1947年には、【 4 】教育制度が小中学校9年間に延長されました。これにより、親の経済状況を理由に小学校も卒業しないうちに、仕事に出される子どもの数は次第に少なくなっていました。

d)高度経済成長期になると、乳幼児死亡率は激減し、日本の人口は1億人をこえました。子どもは労働から解放され、希望するほとんどの子どもは小中学校だけでなく、高等学校に進学するようになり、じゅくや習い事の教室が増えました。親は、子どもを仕事の後つぎとして育てるのではなく、子どもの将来のために、学校に通わせるようになりました。この間、e)子どもの犯罪も変わりました。かつては貧しさゆえのぬすみや殺人が多かったのに対し、近年の犯罪は、貧しさ以外の別の原因であることが多くなりました。

現在では、日本のみならず世界の国々で、年れい別人口やf)産業別人口の割合などのさまざまな統計を作成し、g)今の時代にふさわしい政治を行うための資料にしています。今後、その国の人口や子どもの生活がどのように変化していくのかは、私たちの政治への参加の仕方によって、変わっていくでしょう。

問1 文章中の【 1 】～【 4 】に最もふさわしい語をそれぞれ答えなさい。

問2 下線部 a)について、明治時代の人々の生活を述べた次の文の中から、あやまっているものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 都市を中心に、西洋風のくらしや文化が広がり、牛肉やパンなどを食べるようになった。
- イ 政府は地価の3%を土地の持ち主に現金で納めさせたため、農民は重い税負担に苦しんだ。
- ウ 子どものころから家をはなれて女工として工場に住み込み、厳しい労働条件のもとで長時間働く人もみられた。
- エ 関東大しん災がおこり、東京・横浜を中心に10万人以上の人がなくなった。

問3 下線部 b)について、親と異なる仕事が選べる明治時代に対し、江戸時代の子どもは親の仕事を受けつぎました。その理由を説明しなさい。

問4 下線部 c)に関して述べた次の文章の【 A 】、【 B 】にあてはまる最もふさわしい語をそれぞれ答えなさい。

戦争が続くと、都市の小学生は、【 A 】をさけるために親とはなれ、遠くの農村などへ集団でそ開することになりました。

1945年8月には、【 B 】^{からふと}東北部の満州や樺太南部にソ連軍がせめこみ、多くの日本人がぎせいになりました。戦争が終わってからも、【 B 】にとり残され、日本に帰国できなかつた子どもも大勢いました。

問5 下線部 d)について、高度経済成長期には、日本国内で多くの製油所や石油製品をつくる工場が建設されました。このように、いくつもの製油所や工場が原料、製品などでたがいに結びついて、いっかんした生産を行う工業地域を何というか、答えなさい。

問6 下線部 e)について、子どもの犯罪を担当する裁判所を1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地方裁判所
- イ 高等裁判所
- ウ 簡易裁判所
- エ 家庭裁判所

問7 下線部f)について、日本の産業別人口に関して述べた次の文章の(あ)
～(え)にあてはまる語をあとの語群からそれぞれ選び、記号で答え
なさい。

第一次産業人口は、地方の道府県に分布しています。日本の農村では、働く場所を求めて若い人の人口流出が進み、第一次産業人口が減少し、社会生活を維持することが難しくなる(あ)が進んでいます。一方、第二次産業人口は、(い)とよばれる海沿いの地域に分布しています。日本では、海外に工場をつくり、現地の人をやとひ、生産を行う会社が増えたため、(う)がみられるようになりました。現在、日本で最も人口が多い第三次産業とは(え)のことで、その人口の多くは都市に分布しています。新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの会社がテレワークを導入した結果、第三次産業人口の都市から地方への移動もみられます。

<語群>

ア 太平洋ベルト	イ 農林水産業	ウ ジオパーク	エ 過密
オ 産業の空どう化	カ サービス業	キ 工業	ク 過そ
ケ 少子化	コ ドーナツ化現象		

問8 下線部 g)について、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現在の日本は人口減少社会といわれており、特に全人口に占める 15 才未満の子どもの割合が低いです。一人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均数（合計特しゅ出生率）も年々低くなり、少子化が大きな問題となっています。日本政府も少子化対策として、内閣の組織の中に少子化担当の【 A 】を任命してきました。

そのなかで昨年、少子化だけでなく子どもに関するさまざまな取り組みを専門的にまとめる組織として、【 B 】の設置が国会で決定されました。

- (1) 文章中の【 A 】、【 B 】にあてはまる語をそれぞれ答えなさい。
(2) 下の表 2 から読み取れることとして正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

【表2】日本の人口の変化

	総人口 (万人)	15才未満の子どもの 数(万人)	65才以上の人口 (万人)	合計特しゅ出生率 (%)
1970年	10,302	2,482	733	2.13
1980年	11,706	2,752	1,065	1.75
1990年	12,361	2,254	1,493	1.54
2000年	12,693	1,851	2,204	1.36
2010年	12,806	1,684	2,948	1.39
2020年	12,593	1,512	3,605	1.33

(厚生労働省資料および「人口統計」より作成)

- ア 15才未満の子どもの数は1970年以降、減り続けている。
イ 日本の総人口は、高度経済成長の終りょうとともに減少けい向に変わった。
ウ 1970年の全人口に占める15才未満の子どもの割合は20%をこえていた。
エ 1970年から1980年の合計特しゅ出生率が低下する10年間には、大はばな人口減少がみられる。
オ 2010年以降は、おおよそ4人に1人が高れい者の社会となった。

問9 子どもが安心して生活できる社会をつくるためには、どのような支援を行うことが必要と考えますか。その支援が必要な理由をふくめ、あなたの考えを書きなさい。

